

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1493400129
法人名	株式会社 ウイズネット
事業所名	みんなの家 横浜宮沢3
訪問調査日	平成20年5月13日
評価確定日	平成20年6月13日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 20年 5月 19日

## 【評価実施概要】

事業所番号	第1493400129号
法人名	株式会社 ウイズネット
事業所名	みんなの家 横浜宮沢3
所在地	横浜市瀬谷区宮沢4 - 28 - 8 (電話) 045-300-5560

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1 - 2 - 4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成20年5月13日	評価確定日	平成20年6月13日

【情報提供票より】(平成 20年 3月 6日事務所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 6月 1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人	
職員数	14人	常勤 8人	非常勤 6人	常勤換算 12.0人

### (2) 建物概要

建物構造	(木造)造り	
	2 階建ての	1,2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	64,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金				
保証金の有無 (入居一時金含む)	120,000円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	350 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要 (3月6日 現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 79 歳	最低	67 歳	最高	91 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	聖仁会横浜甞生病院 栄慈会八木在宅クリニック 中川歯科診療
---------	-------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、平成19年6月に開設した新築のホームです。周囲は視界を遮る建物が無く、静かで自然にあふれた環境下にあります。建物内は、リビングおよび居室共広々としたバリアフリー設計となっています。浴室には車椅子の方も安全に入浴できるリフト浴の設備もあり、快適に過ごせるように配慮されています。運営法人は、高齢者福祉事業を多数展開しており、そのノウハウおよび多数の研修を実施して質の高いサービスの提供に努めています。医療連携体制の指定を受け、看護師の訪問による健康管理の面での安心も得られ、また、職員構成(年齢・男女・経験等)のバランスも良く、多様な対応が可能となっています。利用者職員は、日々、興味のあることや新聞・テレビを見ながら話したり、時には利用者から「福祉の世界は厳しいのよね」などと労わりの言葉を掛けていただいたりと、家庭的な温かい雰囲気の中で共に過ごしています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>平成19年6月1日開設のため、今回が初めての外部評価です。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>社員および全職員へ自己評価票を配布し記入してもらい、全員で自己評価に取り組みました。この機会により、各自の思っていることがよりよく分かったり、理念の再確認もでき、評価後にはホームがより家庭的になったと実感することが出来ました。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>開設後1年ですが、3回開催しています。連合町内会、民生委員、地域ケアプラザ、行政担当、宮沢地区内他グループホーム、利用者および家族などが参加して開催されています。事業所運営に関する情報交換や連合町内会長および利用者家族からの意見、行政からの情報を得ることができ、サービスの見直しおよび向上に活かしています。年に1回は地区合同運営推進会議として他ホームとの合同開催ということになっていますので、他のホームとの交流の場ともなっています。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族への報告は、毎月の「一言通信」の送付、来訪時、電話、家族会にて、利用者の様子やホームの行事、連絡事項を適宜報告しています。</p> <p>苦情や要望を表明する機会として、ホームおよび法人、外部相談窓口の明記、法人社長直結の鍵付のご意見ポストの設置、家族の来訪時の声掛けなど多数の方法を設けて、意見や要望を吸い上げ運営に反映出来るように努めています。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩時には挨拶を交し合い、庭の花をくださる方もいます。また、近くの小学校でお花見をさせていただいたり、公園では小さな子やその母親との交流があります。自治会へ参加しており、挨拶に来ていただいたり、イベント情報の通知や参加協力をしていただくなど、地元の人々との交流が行われています。</p> <p>運営推進会議でも、連合町内会長から「イベントや些細なことでも声を掛けてほしい」とホームへの理解を示していただいています。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「必要な人に、必要なサービスの提供を」という法人理念と共に、ホーム独自の理念として「愛と笑顔と明るさ」を心掛け、日々のサービスを提供しています。また、運営規程に「家族や地域との結びつきを重視」と明記しており、自治会をはじめ、近隣の施設や人々との触れ合いを実践しています。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームオープンにあたり、職員皆で話し合い、ホーム独自の理念を作りました。理念は、法人理念と共に玄関や2階フロアー入口の目に入りやすい所に掲示して日々喚起出来るようにしています。また、ホーム長をはじめ、お互いに常に声掛けをし合って、理念を実践するように心掛けています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時には挨拶を交し合い、庭の花をくださる方もいます。また、近くの小学校でお花見をさせていただいたり、公園では小さな子やその母親との交流があります。自治会へ参加しており、挨拶にきていただいたり、イベント情報の通知や参加協力をしていただくなど、地元の人々との交流が行われています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員へ自己評価票を配布し記入してもらい、全員で自己評価に取り組みました。この機会により、各自の思っていることがより良く分かったり、理念の再確認も出来、評価後にはホームがより家庭的になったと実感することが出来ました。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所運営に関する情報交換や、連合町内会長、利用者家族などからの意見、行政からの情報を得ることができ、サービスの見直しおよび向上に活かしています。運営推進会議については、ホームでの社員会議およびスタッフ会議で報告し、議事録を閲覧してもらうようにし、職員全員で情報の共有を図っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政からの紹介による入居もあるため、担当者の訪問があり、現場や実情を知ってもらう機会があります。また、「瀬谷区認知症高齢者はいかいネットワーク」に参加しています。グループホーム連絡会には、これから入る予定とし、サービスの質の向上に取り組んでいます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、健康状況、金銭報告、職員とホーム長からの言葉を載せた「一言通信」を郵送し、また、来訪時や、電話にても利用者の様子やホームの行事、連絡事項を適宜報告しています。納涼祭を催した後に家族会を開いて、様子を伝える機会を設けています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今のところ、寄せられたいませんが、重要事項説明書にホームおよび法人、外部苦情申立て機関を明記し、契約時に説明しています。ホーム玄関には、法人社長直結の鍵付のご意見ポストが置かれ、また、家族の来訪時には声掛けをし、苦情や要望を表明する多数の方法を設け、運営に反映出来るように努めています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職があった場合には、ホーム長や職員が新しい職員について共に利用者へ接することにより、影響を少なくするように配慮しています。日常的には、1階と2階の利用者・職員合同の散歩や行事により、自由な行き来が行われ、ホーム全体での馴染みの関係が作られています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部により、多分野および多数の整備された研修が毎月計画されています。また、法人内グループホームのエリア毎に委員会が設けられて、職員の育成および質の向上に向けての取り組みが法人全体で行われています。研修参加後は、各会議で報告され、報告書は各職員が閲覧出来るようになっています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議年4回開催のうち、1回は区で開催することとなっており、その際には、宮沢地区内の各グループホームとの情報交換や交流を図ることが出来ます。また、近隣や神奈川エリア内に同法人のホームが多数あり、交流する機会を持っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居希望者は、法人営業部入居担当者と相談した後、可能な限り利用者本人に見学していただき、ホームフロアで雰囲気を感じとっていただくようになっています。入居の際には、利用者が家で使っていた馴染みの物を持ち込んでいただくようにしたりして、馴染んでもらえるように努めています。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日々、新聞を見ながら話しをしたり、歌や野球のナイター中継、母の日にはお花の話しなどを行っています。利用者からは、若い職員へ「仕事は見て覚えなさい」などの人生の道徳を教えていただいたり、「福祉の世界は厳しいのよね」などと労っていただいたり、共に和やかに過ごしています。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常生活の中で一人ひとりに即した言葉掛けを行い、利用者の希望や意向に沿った支援を行うようにカンファレンスを開いています。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>2, 3名の職員で10ページにおよぶアセスメント表を検討し、カンファレンスを開き、本人、家族に意見を聞き介護計画書を作成しています。3ヶ月に一度モニタリングを行い、介護計画の変更の必要があるかどうかを検討しています。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者の方が病院に入院し、退院する時などは、退院前に本人の状況を確認し、病院関係者、本人、家族などと話し合っって新たに介護計画書を作成しています。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	内科医が月2回、歯科医も月2回往診に来ています。歯科衛生士は週1回口腔ケアに来ています。また、医療連携体制加算の指定を受けており、看護師が月2回訪問しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人・家族の希望を尊重しています。入居前からのかかりつけ医がいない場合や遠方などの場合は、ホームに往診に来ている医師を紹介しています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携加算の体制があり、往診医などとの医療機関と連携して協力できるような環境作りをしています。入居時に「重度化した場合の対応に係る指針」を本人・家族に説明し、同意書ももらっています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関する書類は、鍵のかかる保管庫で管理しています。居室のとびらの小窓が見えないようにとびらの前にカーテンをしているなど、プライバシーの保護について会議などで話し合ったり、不都合な場面を見た時には声掛けをして注意を促すようにしています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて個別に対応しています。例えば、ナイター中継を消灯後でもリビングで明かりを落して見てもらったり、入浴や散歩、買い物なども、利用者の声を大切にして希望に沿って支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	2週間に1度、「パンバイキング」を行っています。移動パン屋がホームに来て、利用者自身が好きなパンを選んでおこづかいで買っています。行事にはお寿司をとったり、希望により外食をすることもあります。おやつ作りや、配膳、食事後のかたづけ、食器洗いを利用者と職員が一緒になって行っています。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に沿って入浴してもらっています。意思表示の難しい利用者の方には職員からタイミングを見計らって声掛けをしています。入浴を楽しむために入浴剤を使用するなどの工夫をしています。1階にはリフト浴の設備があります。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌は、毎日歌っています。歌詞カードを利用者・職員が一緒になって作成しました。庭いじりもよくしています。水やり、草むしりを利用者の方が気にかけて一生懸命に手入れをしています。掃除やモップ掛けをする役割が自然と定着しています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩に行き、近所の方からお花をいただいたりしています。公園に行った際には、滑り台やブランコに乗ったりして遊具を利用して楽しんでいます。買い物も職員と一緒に行っています。桜の季節にはお花見に出かけるなど、戸外に出る機会を作っています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、侵入防止のため施錠していますが、フロア間の出入り口は、施錠していません。利用者が外に出たいときには、対応できるようにし、閉塞感を感じないように配慮しています。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火チェック表を作成し、時間ごとに7ヶ所を点検しています。さらに自主点検表で防火チェックの確認をしています。11月19日に消防職員の指導のもと消防訓練を行ないました。また、運営推進会議において自治会との協力体制を話し合っています。		災害のために、飲料水や食料などの物品を必要量備蓄しておくことが利用者の安心にもなりますので検討を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	適正なカロリー計算を行い管理栄養士がメニューを作成しています。食事量・水分摂取量は、表にまとめ一目で把握できるようにしています。糖尿病等の利用者には、往診医などと連携して摂取カロリー・味付け・おやつ等に配慮しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに温度計を設置し、換気扇は常時まわしています。リビングの壁には季節を感じるように季節ごとに折り紙や貼り絵で飾りついたりイベントでの写真を飾っています。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、洗面台と鏡が備え付けられています。使い慣れた馴染みのタンスや机、掃除機、仏壇などを居室に持ち込み、利用者の好みの部屋作りがなされています。「必勝」という言葉を飾り、それを見て「己に勝つ」ことに心がけ日々の生活をおくられている利用者の方もいます。		



# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームみんなの家横浜宮沢3
(ユニット名)	1F
所在地 (県・市町村名)	横浜市瀬谷区宮沢4-28-8
記入者名 (管理者)	本谷 弘恵
記入日	平成 20年 3月 23日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念である「愛 明るさ 笑顔 愛」のあるホーム作りをしている。地域との交流を行い、利用者様がお祭りなどに参加利用者様が地域に溶け込めるような環境の提供をしている。		ホームの理念に地域密着の理念を追加して、より一層気持ちの上から地域と利用者様の関係の大切さを強化していきたい
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念作成にあたってホームオープン時にスタッフ、社員にて大切な言葉をそれぞれに上げてもらいそれを基本に理念の作成をし、会議等での確認を行っている。日々の業務においても常に心掛けを忘れないように社員からスタッフに声かけを行っている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	日々の業務を含めイベント行事などにご家族も参加していただけるように工夫し理念の浸透を図っている。また地域運営推進会議にも参加してホームでの活動状況などを報告してお互いに情報交換を行っている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	利用者様と一緒に散歩に出かける際に出会う方々に挨拶を行うようにしている。また自治会などにイベントなどの情報を通知して、ご近所の方々に参加の協力をして頂いている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	現在自治会に加入していて、今年の初詣は近所にある神社に利用者様皆様が参加できた。		今後、自治会で活動しているイベントなどに利用者様の参加していき、より利用者様との交流を図っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者様との交流が現在はない。		自治会と協力・瀬谷区との協力をして地域のイベントなどに参加して、地域貢献をしていきたいと考えている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ全員に自己評価を配布個々に気づきと発見を感じてもらい今後の社員会議にて反映して今より良いホーム作りを目指している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて話し合いを行った感染予防について運営推進会議の会議録を作成、会議に参加していないスタッフにも閲覧できるようにしている。会議録を市や区に報告も行っている。また、手洗いマニュアルを玄関に掲示、消毒液の設置をし、外部からの感染を防いでいる。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事故報告書や生活保護担当の方と情報の共有を行っている。徘徊ネットワーク連絡会に参加している。		今後運営推進会議などを通してグループホームとしては区役所担当者また、運営推進委員の方と運営推進会議以外にての交流を深めていきたいと考えている。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居契約時にご家族様より聞かれた場合には口頭にて説明を行っている。また、必要時には保護担当に相談している。		管理者・ホーム長・社員共に学ぶ機会が少なく具体的な内容、必要性また関係性などを研修にて学んでいく必要がある。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の業務においての個々スタッフによる確認を含む社員からの統一した声かけを行い虐待防止を行っている。また事業所内で虐待と位地づけられる行為は行われていない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際には、一人で説明するのではなく入居の担当者も一緒に説明を行い不安・疑問に十分な説明できるような体制をとって契約を勧めている。納得されない場合には、運営法人とも連携をとり、説明を行い納得していただいている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>個々スタッフが利用者様から聞いた話などを月に一回開催される社員会議スタッフ会議にて話し合い、個々のカンファレンスを行い今後の利用者様の生活に反映できるように対応している。また、契約時に苦情窓口・外部相談窓口について説明を行っている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に一回ご家族の皆様健康面を含め金銭管理等の書類を郵便にて送っています。また一言通信という形で日々のイベントや人員異動なども報告している。なかなか連絡の取りづらいご家族様には定期的に電話対応もしている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見ポストを設置ご家族様からの意見や苦情に対応している。面会時に、ご家族からの意見や、苦情を聞けるような環境作りをしている。家族とのコミュニケーションを大切にしている。他に、本社などにも苦情相談窓口・国保連などの第三者機関からの窓口を設けホーム運営に反映させている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に一回開催される社員会議・スタッフ会議にて個々スタッフからの意見や提案などを聞き今後のホーム運営に反映させている。場合により個々に面談などで話しをきいたり工夫している。また月に一回開催されているホーム長会議に参加情報収集に努めている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者様やご家族の状況の変化などに対応して話し合いの場を設け勤務の調整に努めていきたい。</p>	<p>勤務時間も調整し、状況の変化、要望に対応できるようにしていきたい。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>社員・スタッフの離職はほとんどない。また離職された場合にも再就職支援登録加入制度を会社で作成し、ボランティアやイベントなどの際には声をかけさせていただいたり、当社に再就職しやすい環境になっている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の業務のほかに安全対策委員会・ケアプラン委員会・研修委員会などがあり、スタッフ個々に参加を促し介護従事者としての質を上げられるように現場レベルでの指導をしている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区役所などが主催している研修会などに参加。また、地域運営推進会議などでも他グループホームとの交流を図り、ホーム内でサービスの質を向上している。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	固定の休憩時間は取れない。その場に応じた休憩時間を個々にとるようにとの声かけを行っている。また個々の悩みなどをホーム長などが話を聞いて御本人のストレス軽減を計っている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々にスタッフとの面談を行い今後に向けての短期目標から長期目標などを聞いて今後の個々スタッフの育成方針を考えたり、半年に一度、人事考課等で昇格、昇給の考慮をしている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ホーム長自ら率先して利用者様の悩み、不安を個別相談にて聞いて今後のホーム作りなどに影響させている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	手紙や一言通信・電話などで利用者様ご家族の不安な事や、求めている事を受け止め今後活かせるように対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、利用者様に必要としている、支援を見極める。また、場合によってはSVなどに連絡を取り、迅速に利用者様またご家族に対して必要な他サービスを話し合っている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム見学をされる際にご利用者様とふれ合い馴染みができるような工夫を行う。入居後は不安などを軽減する為、スタッフや他利用者様から声かけなどを行い、場の雰囲気を馴染めるように環境作りをしている。横浜(営)より担当職員がホームの見学の対応をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々日常の出来事を利用者様と一緒に楽しむように統一した介護を行っている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者様と一緒に食事をしたり、掃除を行ったりと生活時間を共有し喜怒哀楽を味わえるような環境作りをしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	個人データファイルを作成。利用者様とご家族の環境を今までと変わらず良い関係が保てるように対応している。また利用者様・家族の気持ちを常に考えるように心がけている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様から電話等の依頼があった場合なるべく電話できるような環境を作っている。ご家族にお願いをして連絡をさせていただいてイベントなどに参加していただいたりもしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日々のお茶の時間などに一緒になる時間を設け、日々日常の会話や過去の話などを利用者様から話題提供を行ってもらい、孤立しないように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在は取り組みは行っていない。		是非お手紙などで交流を図ったり、イベントなどに参加していただけるような支援をしていきたいと思っている。
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々利用者様の個人カンファレンスを行い、家族、利用者様の希望や、意向に沿った支援をしていくように心がけている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々利用者様に対して入居前に個人データファイルの作成をしている。利用者様の過去から日々日常の事などを記載。ご家族からの協力を得る場合もある。入居後は利用者様からの聞いた話や、ご家族からの会話を追加したりしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日勤帯から夜勤に、また日勤帯に申し送りを送り個々利用者様の心身状態の把握できるように支援している。会議や、個別カンファレンスなども活用している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の申し送り、生活記録等でスタッフの情報共有をカンファレンスに繋げている。利用者様がより良く生活する為に、必ず利用者様の意向・ご家族の意向などを聞きまた作成時にはご家族に相談しながらケアプラン(介護計画書)を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入院・退院後などにはケアプランの見直しを行うと同時に日々利用者様の変化に合わせてケアプラン(介護計画書)の見直し、カンファレンス・モニタリングを通して作成を行っている。		

項 目		( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子や、普段と違う行動などの場合には必ず記入するようにしている。不穏時などには統一したケアを行うように声かけを行っている。また生活記録からケアプラン・カンファレンス・日々の介護に活用できるように対応している。</p>	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者様やご家族の意向の変化に対応する為、個別記録などに心かけ、定期的なカンファレンスなどで情報を共有している。話した内容をご家族に報告したりしている。医療連携加算・居宅医療管理指導を実施している。</p>	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>避難訓練・お祭りに参加など行っている。</p>	<p>ご利用者様の必要に応じて、民生委員やボランティア、警察・消防などと協力して支援していきたいと考えている。</p>
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>現在他のサービスを使用している利用者様はいない。</p>	<p>ご利用者様の必要に応じて、ご家族などと相談・協力し、他のサービスを利用できるように支援していきたいと考えている。</p>
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>地域運営推進会議などを利用して民生委員等他事業所の方々と情報交換を行っている。場合によって民生委員の方、他事業所の方と相談をして支援の方向性を考えたりしている。</p>	
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者様・ご家族の意向により馴染みとの医療がある場合、定期的に馴染みに医療機関に受診されている利用者様もいる。</p>	



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	24時間Drコールがあり、専門認知症に詳しいDrから認知症に関する対応をしていただけます。また往診に来られる医療機関、利用者様との意思疎通も出来ている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問医療の方から日々の利用者様の健康管理の事や、利用者様からのちょっとしたことの相談など聞いて対応している。非常勤での看護師の配置。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	介護連絡表の作成をし、ホームでの生活内容を適切に申し送りできるように対応している。また病院関係者との情報交換なども行っている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者様・ご家族様には入居手続きの際に重度化した場合の説明は行っている。利用者様・ご家族の気持ちなどを大切にして、医療機関などと連携して協力できるような環境作りをしている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療機関との連携・ご家族との連携・介護スタッフの統一したケアなどから「できること・できないこと」を見極め、可能な限りホームで対応している。		
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者様の安心を優先に考え、利用者様に合った内容でご家族・利用者様・ホームで話し合い利用者様のストレスなどの軽減を計っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人データファイルなどは必ず鍵のある所に保管し、利用者様のプライバシーの保護を行っている。またトイレの失敗などの心が傷つく事は他利用者様などに話していない。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>個々にしたいことなどをお茶の時間などを利用して聞いたり、言葉に表現することが難しい場合には動作や、仕草などから読み取り利用者様が選択できるような生活を送れるように支援している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者様ひとり一人のペースで生活して頂けるようにスタッフの勤務体制の調整を行っている。利用者様のペースに合わせて個別ケアを行ったり、利用者様からの声を大切に日々業務をするように統一したケアを行っている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>利用者様によってご家族に髪の毛を切っている方もいれば、お決まりの理容美容に行ってらっしゃる利用者様もいらっしゃる。また小指にマニキュアなどをしている利用者様もいらっしゃる。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者様も一緒に配膳や配膳後の食器洗いなど手伝えるような環境作りをしている。また、時々スタッフ見守りの元で利用者様が利用者様を食事介助したりしている。イベント食や外食レク等の取り組みも行っている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>医療的な制限がない場合には利用者様に合わせた日常の楽しみを出来るように支援している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	現在紙オムツ使用者はゼロになりました。個々利用者様の排泄パターンを予測し、統一したトイレ誘導により気持ちよく排泄できるように支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個々利用者様に合わせて、毎日入浴する方もいらっしゃいます。また意思表示の難しい利用者様に対して、タイミングを見計らって声かけなどを行っている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	可能な限り、利用者様が行っていた生活習慣を大切にして統一したケアを行っている。場合によってはご家族との相談をして環境作りを支援したりしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カンファレンス・アセスメント・などから日々利用者様が張り合いのある生活楽しみのある日々を送れるようなケアプランの作成を行い、役割や、イベントの参加をしている。会議、生活記録や申し送り等で情報共有している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様と一緒に散歩に出かけた際に買い物をする場合、利用者様の希望や力に応じてお金を所持して買い物などを積極的にしたりできるような環境作りをしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気が良い日などは外に洗濯物をスタッフと一緒に干していただいたり、ホームの敷地内の雑草取りなどを一緒にできるようなその日に沿った環境作りをしている。又、近隣への買い物や散歩等実施している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別レクリエーションや、イベントなどを利用して利用者様が普段行けない様な場所に行ける機会をつくるように心がけている。		今後、個別レクなどの回数を増やしより利用者様・ご家族の方々に楽しんでいただけるようなホーム作りをしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族・身内の方からのご利用者様宛てのお電話は必ずご利用者様がやり取りできるような支援をしている。手紙の文通なども行っている利用者様もいる。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時などにはご利用者様のお部屋に他利用者様とスタッフが椅子などを用意して他利用者様と一緒にお茶を入れて持っていったりしています。またフロアで一緒に会話できるような環境作りも常に心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ運動を日々ケアの中に取り入れ、玄関などの見えるところに掲示したりしている。また会社内でマニュアルがあり個々スタッフにも配布している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	生活空間が制限されているので実施していない。安全管理で施錠しなければならない場合は、その理由を利用者様・ご家族に説明と理解を求めている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者様のプライバシーに配慮しながら常に利用者様のいる位地の把握をするような統一したケアを行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者様のADLに合わせて管理把握をしています。また注意の必要な物品に関しては目の届くところで管理を一緒に行っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者様の行動を常に把握して安全管理に努めています。また職員間で情報の共有ができるよう、ヒヤリハット・事故報告書などを会議の場にて話し合い今後の対策などに役立てている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応マニュアルなどを作成。また、会社内で行われる研修などをスタッフが参加し、知りえた知識を会議などで発表共に情報の共有を行っている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム内に非難経路を掲示している。また自治会や近隣の住民などと協力体制もとれている。年に2回近くの消防署に消防訓練と同時に災害対策も学んでいる。運営推進会議等で話し合いを行っている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	個々の利用者様の能力に応じて起こりうるリスクをご家族と一緒に話し合い、ケアプランなどに反映させている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個人申し送りノートを活用して日々の体調変化や、発見に努め、全ての職員が情報がすぐに分かるように対応している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ホームでは、個別申し送りノートと一緒に服薬管理表を載せ、個々利用者様の飲んでいる薬や、切れる日にち、新しく追加した薬を全スタッフが把握できるようにしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	利用者様の排泄パターンを予測し、必要な場合にはDrに指示を仰いだりしている。また、利用者様と一緒に水分補給、食事。適度な運動を一緒に行い予防に努めている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個々利用者様によって違うが、毎食後に、声かけや場合によっては一部介助・全介助を行っている。また、歯科医師や、歯科衛生士の指導を元に口腔ケアなどを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の栄養価はメニュー表などで把握している。食事量や、水分摂取量なども記録に残したり、管理を行っている。必要な場合には協力医療機関などと連携しご家族様と話し合いなどを行っている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルを作成。マニュアルに沿って対応している。利用者様とお散歩から帰ってきた際には手洗いうがいの声かけなども行っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	キッチン衛生マニュアルがあり、マニュアルに沿って対応している。食材管理も日付などを記入して保管している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物周辺に季節の花を植え道ゆく人にも観覧できるように工夫している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じてもらう為に、ホーム内の壁などに折り紙などを使用してペイントなどをしたりして日々の生活の中で季節を感じてもらえるように心かけている。冬場には加湿器などを設置して健康の配慮を行っている。夜間のフロアの照明を非常灯にするなどの工夫もしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間の中で一人でいれる場所や、他利用者様と一緒にいれる場所の空間がつけられるような環境作りをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	個々利用者様の自室はそれぞれの好みに合わせて対応し ている。床対応している利用者様もいれば、仏壇で部屋一杯 のご利用者様のお部屋もあります。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	利用者様の部屋は必ずリネン交換の際に換気するように心 かけをしています。また外気との大きな温度差がないように温 度管理をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	個々に「出来ること・出来ない事」を把握して安全に利用者様 が自立した生活が送れるように支援している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	個々利用者様のお部屋にお名前を模造紙に書いて他利用 者様が間違わないように工夫している。また、トイレ・入浴場 なども同じように工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	利用者様が洗濯物などを気軽に干せるように入出口を工 夫している。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームみんなの家横浜宮沢3
(ユニット名)	2F
所在地 (県・市町村名)	横浜市瀬谷区宮沢4-28-8
記入者名 (管理者)	本谷 弘恵
記入日	平成 20年 3月 23日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域との交流を行い、利用者様がお祭りなどに参加利用者様が地域に溶け込めるような環境の提供をしている。</p>	<p>ホームの理念に地域密着の理念を追加して、より一層気持ちの上から地域と利用者様の関係の大切さを強化していきたい</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念作成にあたってホームオープン時にスタッフ、社員にて大切な言葉をそれぞれに上げてもらいそれを基本に理念の作成をし、会議等での確認を行っている。日々の業務においても常に心掛けを忘れないように社員からスタッフに声かけを行っている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>日々の業務を含めイベント行事などにご家族も参加していただけるように工夫し理念の浸透を図っている。また地域運営推進会議にも参加してホームでの活動状況などを報告してお互いに情報交換を行っている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>利用者様と一緒に散歩に出かける際に出会う方々に挨拶を行うようにしている。また自治会などにイベントなどの情報を通知して、ご近所の方々に参加の協力をしている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>現在自治会に加入していて、今年の初詣は近所にある神社に利用者様皆様が参加できた。</p>	<p>今後、自治会で活動しているイベントなどに利用者様の参加していき、より利用者様との交流を図っていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者様との交流が現在はない。		自治会と協力・瀬谷区との協力をして地域のイベントなどに参加して、地域貢献をしていきたいと考えている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ全員に自己評価を配布個々に気づきと発見を感じてもらい今後の社員会議にて反映して今より良いホーム作りを目指している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の会議録を作成、会議に参加していないスタッフにも閲覧できるようにしている。会議録を市や区に報告も行っている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村とともにサービスの質の向上に取り組めていない。		今後運営推進会議などを通してグループホームとしては区役所担当者また、運営推進委員の方と運営推進会議以外にての交流を深めていきたいと考えている。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居契約時にご家族様より聞かれた場合には口頭にて説明を行っている。また、必要時には保護担当に相談している。		管理者・ホーム長・社員共に学ぶ機会が少なく具体的な内容、必要性また関係性などを研修にて学んでいく必要がある。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の業務においての個々スタッフによる確認を含む社員からの統一した声かけを行い虐待防止を行っている。また事業所内で虐待と位地づけられる行為は行われていない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際には、一人で説明するのではなく入居の担当者も一緒に説明を行い不安・疑問に十分な説明できるような体制をとって契約を勧めている。納得されない場合には、運営法人とも連携をとり、説明を行い納得していただいている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>個々スタッフが利用者様から聞いた話などを月に一回開催される社員会議スタッフ会議にて話し合い、個々のカンファレンスを行い今後の利用者様の生活に反映できるように対応している。また、契約時に苦情窓口・外部相談窓口について説明を行っている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に一回ご家族の皆様健康面を含め金銭管理等の書類を郵便にて送っています。また一言通信という形で日々のイベントや人員異動なども報告している。なかなか連絡の取りづらいご家族様には定期的に電話対応もしている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見ポストを設置ご家族様からの意見や苦情に対応している。面会時に、ご家族からの意見や、苦情を聞けるような環境作りをしている。他に、本社などにも苦情相談窓口・国保連などの第三者機関からの窓口を設けホーム運営に反映させている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に一回開催される社員会議・スタッフ会議にて個々スタッフからの意見や提案などを聞き今後のホーム運営に反映させている。場合により個々に面談などで話しをきいたり工夫している。また月に一回開催されているホーム長会議に参加情報収集に努めている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者様やご家族の状況の変化などに対応して話し合いの場を設け勤務の調整に努めていきたい。</p>	<p>勤務時間も調整し、状況の変化、要望に対応できるようにしていきたい。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>社員・スタッフの離職はほとんどない。また離職された場合にも再就職支援登録加入制度を会社で作成し、ボランティアやイベントなどの際には声をかけさせていただいたり、当社に再就職しやすい環境になっている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の業務のほかに安全対策委員会・ケアプラン委員会・研修委員会などがあり、スタッフ個々に参加を促し介護従事者としての質を上げられるように現場レベルでの指導をしている。	
20	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区役所などが主催している研修会などに参加。また、地域運営推進会議などでも他グループホームとの交流を図り、ホーム内でサービスの質を向上している。	
21	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	固定の休憩時間は取れない。その場に応じた休憩時間を個々にとるようにとの声かけを行っている。また個々の悩みなどをホーム長などが話を聞いて御本人のストレス軽減を計っている。	
22	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々にスタッフとの面談を行い今後に向けての短期目標から長期目標などを聞いて今後の個々スタッフの育成方針を考えたり、半年に一度、人事考課等で昇格、昇給の考慮をしている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ホーム長自ら率先して利用者様の悩み、不安を個別相談にて聞いて今後のホーム作りなどに影響させている。	
24	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	手紙や一言通信・電話などで利用者様ご家族の不安な事や、求めている事を受け止め今後活かせるように対応している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、利用者様に必要としている、支援を見極める。また、場合によってはSVなどに連絡を取り、迅速に利用者様またご家族に対して必要な他サービスを話し合っている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム見学をされる際にご利用者様とふれ合い馴染みができるような工夫を行う。入居後は不安などを軽減する為、スタッフや他利用者様から声かけなどを行い、場の雰囲気を馴染めるように環境作りをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々日常の出来事を利用者様と一緒に楽しむように統一した介護を行っている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者様と一緒に食事をしたり、掃除を行ったりと生活時間を共有し喜怒哀楽を味わえるような環境作りをしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	個人データファイルを作成。利用者様とご家族の環境を今までと変わらず良い関係が保てるように対応している。また利用者様・家族の気持ちを常に考えるように心がけている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様から電話等の依頼があった場合なるべく電話できるような環境を作っている。ご家族にお願いをして連絡をさせていただいてイベントなどに参加していただいたりもしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日々のお茶の時間などに一緒になる時間を設け、日々日常の会話や過去の話などを利用者様から話題提供を行ってもらい、孤立しないように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在は取り組みは行っていない。		是非お手紙などで交流を図ったり、イベントなどに参加していただけるような支援をしていきたいと思っている。
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々利用者様の個人カンファレンスを行い、利用者様の希望や、意向に沿った支援をしていくように心がけている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々利用者様に対して入居前に個人データファイルの作成をしている。利用者様の過去から日々日常の事などを記載。ご家族からの協力を得る場合もある。入居後は利用者様からの聞いた話や、ご家族からの会話を追加したりしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日勤帯から夜勤に、また日勤帯に申し送りを送り個々利用者様の心身状態の把握できるように支援している。会議や、個別カンファレンスなども活用している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者様がより良く生活する為に、必ず利用者様の意向・ご家族の意向などを聞きまた作成時にはご家族に相談しながらケアプラン(介護計画書)を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入院・退院後などにはケアプランの見直しを行うと同時に日々利用者様の変化に合わせてケアプラン(介護計画書)の見直し、カンファレンス・モニタリングを通して作成を行っている。		



項目		( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子や、普段と違う行動などの場合には必ず記入するようにしている。不穏時などには統一したケアを行うように声かけを行っている。また生活記録からケアプラン・カンファレンス・日々の介護に活用できるように対応している。</p>	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者様やご家族の意向の変化に対応する為、個別記録などに心かけ、定期的なカンファレンスなどで情報を共有している。話した内容をご家族に報告したりしている。</p>	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>避難訓練・お祭りに参加など行っている。</p>	<p>ご利用者様の必要に応じて、民生委員やボランティア、警察・消防などと協力して支援していきたいと考えている。</p>
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>現在他のサービスを使用している利用者様はいない。</p>	<p>ご利用者様の必要に応じて、ご家族などと相談・協力し、他のサービスを利用できるように支援していきたいと考えている。</p>
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>地域運営推進会議などを利用して民生委員等他事業所の方々と情報交換を行っている。場合によって民生委員の方、他事業所の方と相談をして支援の方向性を考えたりしている。</p>	
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者様・ご家族の意向により馴染みとの医療がある場合、定期的に馴染みに医療機関に受診されている利用者様もいる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	24時間Drコールがあり、専門認知症に詳しいDrから認知症に関する対応をしていただけます。また往診に来られる医療機関、利用者様との意思疎通も出来ている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問医療の方から日々の利用者様の健康管理の事や、利用者様からのちょっとしたことの相談など聞いて対応している。非常勤での看護師の配置。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	介護連絡表の作成をし、ホームでの生活内容を適切に申し送りできるように対応している。また病院関係者との情報交換なども行っている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者様・ご家族様には入居手続きの際に重度化した場合の説明は行っている。利用者様・ご家族の気持ちなどを大切にして、医療機関などと連携して協力できるような環境作りをしている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療機関との連携・ご家族との連携・介護スタッフの統一したケアなどから「できること・できないこと」を見極め、可能な限りホームで対応している。		
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者様の安心を優先に考え、利用者様に合った内容でご家族・利用者様・ホームで話し合い利用者様のストレスなどの軽減を計っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人データファイルなどは必ず鍵のある所に保管し、利用者様のプライバシーの保護を行っている。またトイレの失敗などの心が傷つく事は他利用者様などに話していない。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>個々にしたいことなどをお茶の時間などを利用して聞いたり、言葉に表現することが難しい場合には動作や、仕草などから読み取り利用者様が選択できるような生活を送れるように支援している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者様のペースに合わせて個別ケアを行ったり、利用者様からの声を大切に日々業務をするように統一したケアを行っている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>利用者様によってご家族に髪の毛を切っている方もいれば、お決まりの理容美容に行ってらっしゃる利用者様もいらっしゃる。また小指にマニキュアなどを行っている利用者様もいらっしゃる。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者様も一緒に配膳や配膳後の食器洗いなど手伝えるような環境作りをしている。また、時々スタッフ見守りの元で利用者様が利用者様を食事介助したりしている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>医療的な制限がない場合には利用者様に合わせた日常の楽しみを出来るように支援している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	現在紙オムツ使用者はゼロになりました。個々利用者様の排泄パターンを予測し、統一したトイレ誘導により気持ちよく排泄できるように支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個々利用者様に合わせて、毎日入浴する方もいらっしゃいます。また意思表示の難しい利用者様に対して、タイミングを見計らって声かけなどを行っている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	可能な限り、利用者様が行っていた生活習慣を大切に統一したケアを行っている。場合によってはご家族との相談をして環境作りを支援したりしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カンファレンス・アセスメント・などから日々利用者様が張り合いのある生活楽しみのある日々を送れるようなケアプランの作成を行い、役割や、イベントの参加をしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様と一緒に散歩に出かけた際に買い物をする場合、利用者様の希望や力に応じてお金を所持して買い物などを積極的にしたりできるような環境作りをしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気が良い日などは外に洗濯物をスタッフと一緒に干していただいたり、ホームの敷地内の雑草取りなどを一緒にできるようなその日に沿った環境作りをしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別レクリエーションや、イベントなどを利用して利用者様が普段行けない様な場所に行ける機会をつくるように心がけている。		今後、個別レクなどの回数を増やしより利用者様・ご家族の方々に楽しんでいただけるようなホーム作りをしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族・身内の方からのご利用者様宛てのお電話は必ずご利用者様がやり取りできるような支援をしている。手紙の文通なども行っている利用者様もいる。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時などにはご利用者様のお部屋に他利用者様とスタッフが椅子などを用意して他利用者様と一緒にお茶を入れて持っていったりしています。またフロアで一緒に会話できるような環境作りも常に心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ運動を日々ケアの中に取り入れ、玄関などの見えるところに掲示したりしている。また会社内でマニュアルがあり個々スタッフにも配布している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	生活空間が制限されているので実施していない。安全管理で施錠しなければならない場合は、その理由を利用者様・ご家族に説明と理解を求めている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者様のプライバシーに配慮しながら常に利用者様のいる位地の把握をするような統一したケアを行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者様のADLに合わせて管理把握をしています。また注意の必要な物品に関しては目の届くところで管理を一緒に行っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者様の行動を常に把握して安全管理に努めています。また職員間で情報の共有ができるよう、ヒヤリハット・事故報告書などを会議の場にて話し合い今後の対策などに役立てている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応マニュアルなどを作成。また、会社内で行われる研修などをスタッフが参加し、知りえた知識を会議などで発表共に情報の共有を行っている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム内に非難経路を掲示している。また自治会や近隣の住民などと協力体制もとれている。年に2回近くの消防署に消防訓練と同時に災害対策も学んでいる。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	個々の利用者様の能力に応じて起こりうるリスクをご家族と一緒に話し合い、ケアプランなどに反映させている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個人申し送りノートを活用して日々の体調変化や、発見に努め、全ての職員が情報がすぐに分かるように対応している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ホームでは、個別申し送りノートと一緒に服薬管理表を載せ、個々利用者様の飲んでいる薬や、切れる日にち、新しく追加した薬を全スタッフが把握できるようにしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	利用者様の排泄パターンを予測し、必要な場合にはDrに指示を仰いだりしている。また、利用者様と一緒に水分補給、食事。適度な運動を一緒に行い予防に努めている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個々利用者様によって違うが、毎食後に、声かけや場合によっては一部介助・全介助を行っている。また、歯科医師や、歯科衛生士の指導を元に口腔ケアなどを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の栄養価はメニュー表などで把握している。食事量や、水分摂取量なども記録に残したり、管理を行っている。必要な場合には協力医療機関などと連携しご家族様と話し合いなどを行っている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルを作成。マニュアルに沿って対応している。利用者様とお散歩から帰ってきた際には手洗いうがいの声かけなども行っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	キッチン衛生マニュアルがあり、マニュアルに沿って対応している。食材管理も日付などを記入して保管している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物周辺に季節の花を植え道ゆく人にも観覧できるように工夫している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じてもらう為に、ホーム内の壁などに折り紙などを使用してペイントなどをしたりして日々の生活の中で季節を感じてもらえるように心かけている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間の中で一人でいれる場所や、他利用者様と一緒にいれる場所の空間がつけられるような環境作りをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	個々利用者様の自室はそれぞれの好みに合わせて対応し ている。床対応している利用者様もいれば、仏壇で部屋一杯 のご利用者様のお部屋もあります。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	利用者様の部屋は必ずリネン交換の際に換気するように心 かけをしています。また外気との大きな温度差がないように温 度管理をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	個々に「出来ること・出来ない事」を把握して安全に利用者様 が自立した生活が送れるように支援している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	個々利用者様のお部屋にお名前を模造紙に書いて他利用 者様が間違わないように工夫している。また、トイレ・入浴場 なども同じように工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	利用者様が洗濯物などを気軽に干せるように入出口を工 夫している。		



. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】  
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)